木岡哲学対話の会 2023.3.5

哲学講話と哲学対話

木岡伸夫

本会は二部で構成される。前半に①「哲学講話」を置き、これと後半の②「哲学対話」とがセットをなす。①②は「木岡哲学対話の会」の両輪を構成し、切り離すことができない。その関係性を、以下の諸点に分けて説明する。

(1)〈対話〉という目的

①と②のいずれも、本会が看板に掲げる〈対話〉を目的とし、哲学即対話、対話即哲学という基本認識に立つ。二つは、同じく哲学に関する対話であるものの、方法・手順が異なる。簡単に言えば、対話に向けての発信主体が、①では主宰者（木岡）、②では参加者。この違いによって、「講話」と「対話」の呼び名が区別される。

(2)「講義」と「講話」

「講話」は、一定量の知識提供を内容とする点で「講義」に似るが、一方通行的な知識の伝達ではないという点で、「講義」とは異なる。講義が一方通行的であるのは、上位者（先生）から下位者（生徒）に向けて行う「教育」を主旨とすることによる。「講話」もまた、知識を「講ずる」点において「講義」的性格を帯びるが、伝達される情報が参加者の「考える」材料に供され、双方向の対話へと開かれる点において、講義から決定的に区別される。

(3) 対話の意義

「対話」は、ダイアローグ（dialogue）つまり「二つのロゴス（ことば、論理）」。イメージとしては、一対一で向き合った主体同士が、それぞれの考え（ロゴス、言葉）をやりとりするもの。何人もが集って言葉を交わす「会話」や、仲間同士で気楽なおしゃべりに興じる「チャット」の類とは異なる。昨年の「対話の会」が、一問一答式を採ったのは、それが「対話」の基本形式である、という認識からである。

(4)「哲学講話」の手順

「講話」は、一つのトピック（テーマ）を提示して、それを「考える」ための材料（資料）を提供する。本日は、「考えること」がテーマ。「考えること」について考えるための基礎資料は、私による「哲学」の意味づけ（≠定義）〈自分のテーマを自分の頭で考え、自分の言葉で表現する〉のみ。この了解に沿いつつ、具体例について「考える」。講義の場合のようなレジュメは用いない――必要に応じて「資料」を配布する。

(5)「哲学対話」の要領

初回は、昨年度の「対話の会」に導入した事例検討法（PCAGIP）に、ほぼ準じる。個人的な体験をベースにした事例提供は、学問の世界で「研究発表」と呼ばれるものに相当するが、同じではない。それとの違いは、発表内容をめぐる質疑応答が、ディベート（論争）ではなく〈対話〉であること――真偽をめぐる「争い」ではなく、各自それぞれの「気づき」をめざすという点。この点についての異論や疑問があれば、機会を見て応じたい。

(6) 参加に当たっての注意

①聴くこと――「講話」では、話の内容に関係する資料は用意するものの、「講義」のようにレジュメを配布することはしない。これに応じて参加する側も、必要最小限のメモ以外、ノートをとらない。これは、聴くこと・考えることに集中するためである――知識の習得をめざす「講義」であれば、むろんノート・テイキングは不可欠。
②話すこと――〈対話〉を旨とする発表（事例提供）であるなら、講話と同様にフリー・トークとするか、箇条書き程度のレジュメを用意するにとどめること。しかし、事例の詳細を説明したい場合、「研究発表」並みの周到な準備をするもよし。個々の判断に任せる。
③質疑応答――講話・対話とも、一問一答式のやりとりを原則とする。発言の順序は自由、こちらから発問を強制することもない。ひとわたり質疑が済んだ後は、各自の関心に従い、自由に質問を重ね、意見を表明してよいこととする。

(7) スケジュール

講話・対話のいずれに関しても、年間の実施計画を立てることはしない。各回の終了時に、次回のプログラムを相談し、次回開催の二週前に、全員宛ての案内で予定を示すやり方をとりたいと考える。原則として、講話については主宰者、対話については参加者からテーマが提案され、話し合いによって全体の合意を得る流れとしたい。

(8) テーマについて

昨年度の PCAGIP では、各回 1 名が何らかの事例について発表した後、それをめぐる検討（質疑応答）が行われた。事例の内容は、自身の体験談から研究発表に近いものまで、個々の関心によってさまざま。事例提供は 30 分以内、それをめぐっての質疑応答に 60 分程度が充てられた。しかし、この方式では、事例提供者に対話の主役としての重圧がかかりすぎるきらいがある。全員が負担のないフラットな立場で意見を交わすには、事例提供者を特定しない形で、対話のテーマを設定することがふさわしい。そこで、二とおりのやり方が考えられる。第一に、従来と同様の事例提供（発表）を希望する人には、その機会を保障する。第二に、発表者を特定しない全員参加型の議論を希望する人は、テーマを提示するさいに、簡単な理由説明を行うこととする。以上のいずれとするかは、各回の終了前に相談する。